

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②施設・事業所情報

名称： 認定こども園やつはしキッズ ハッ橋幼稚園	種別： 認定こども園
代表者氏名： 園長 篠崎 真由美	定員（利用人数）： 479（400）名
所在地： 241-0825 神奈川県横浜市旭区中希望が丘196	
TEL： 045-364-7771	ホームページ： http://www.yatsuhashi.ed.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2008年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）： 学校法人ハッ橋学園	
職員数	常勤職員： 47名 非常勤職員： 15名
専門職員	保育士 38名 栄養士 2名
	看護師 0名 調理員 4名
	用務員・事務員 11名 補助員 7名
施設・設備の概要	居室数： 保育室20室、配膳室、事務室、職員室、更衣室、園長室 設備等： 園庭、屋上園庭、駐車場

③理念・基本方針

<p>「勇氣・元気・根気の子」</p> <p>ハッ橋学園では、子どもの心理を理解し、大きな愛情あふれる保育をたえず工夫しています。ご家庭と連絡をとりながら、ひとりひとりの長所を伸ばし、友だちとの共同生活によって、家庭では得られない社会性・克己心自己表現などを身につけ、品位ある人間性を発揮できるよう保育します。</p> <p>①自分の意志で何かをやろうとする意欲のもてる子どもにする ②よりよいものを求めて、自由に発想し創造工夫できる子どもを育てる ③生活を楽しむことのできる子どもを育てる ④友だちとかかわる喜び・協力する大切さを知る</p> <p>先生や友達と共に過ごす生活の中で様々な人やもの、できごとと出会い一人ひとりの興味や関心を大切にし、意欲や思いやりのある子どもを育てます。</p>
--

④施設・事業所の特徴的な取組

園は多彩な活動を行っています。2歳児からは外部の講師による体操遊びやリトミック遊びをしています。3～5歳児は敷地内の25メートルプールを使い、週1回の水泳指導を受けています。そのほか、造形や音楽、ダンス、文字遊びなど多くの活動を行い、子どもたちは楽しんで取り組んでいます。5歳児になると鼓笛隊として、みんなで心を合わせて演奏することを目標に練習して、旭区の旭ジャズまつりに毎年参加しています。また、当園には外国人のスタッフが数名いますので、0歳児から外国人のスタッフと異文化コミュニケーションを通して、外国人に慣れ親しむことを大切にしています。また、当園は認定こども園になる前の幼稚園のときから、地域との共生を大事に考えてきましたので、現在も地域支援活動を行い、地域の子育て中の親子に喜ばれています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月23日（契約日）～ 2022年12月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2016年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆多彩な地域支援活動を実践し、地域の親子に喜ばれています

当園は地域の子育て支援拠点の幼保連携認定こども園としてさまざまな地域支援を行っています。その背景には幼稚園の時代から地域の子育て中の親子に対するフォローが大事であるとの思いが経営層にあり、この認定こども園に移行した際にもその実績を生かして、より幅の広い活動を展開してきました。具体的には、「2歳児親子ふれあい教室」（年6回）、「1歳児よちよちクラブ」（年11回）、「0歳児ハローベイビー」（年11回）などを定期的に行うとともに、交流保育や育児講座（トイレトレーニング）、育児相談、園庭開放など多彩な活動を展開しています。これらは、ホームページや園の掲示板でお知らせをして参加を呼び掛けています。

◆個々の職員の質の向上を図る取り組みを実施しています

個々の職員の資質向上を図るために「振り返りシート」（アクションプランシート）を活用しています。このシートは個人目標として毎年目ざす姿及び具体的な目標を記載します。そして、具体的な目標に向けて活動し、学期ごとに振り返り、自分がどのような取り組みをしてきたかを記述するとともに、目標に対する達成率を書き込みます。そのうえで上司からのコメントをもらう形です。さらに、数年後をイメージした目ざす姿を記載し、そこに向けた目標も書き込みます。この振り返りシートは毎年記載していきますので、個々の職員の資質向上に役立っています。経営層も職員の思いや資質向上を理解するうえでおいに役立っています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を行い、保護者の方々のたくさんのご意見を伺うことができました。
また、第三者評価のための職員自己評価を行うことで、認定こども園としての組織的知識や乳児保育と幼児教育の相互理解の足りない点が露呈されました。露呈した課題については、今後学園での研修をして意識を高めていくと共に、乳児・幼児相互の保育に入ることや教育の研修をしていくことで、相互理解を深めていけるようにしたいと思います。
第三者評価の結果を踏まえながら、乳幼児の保育教育する施設としてはもちろん、地域のための子育て支援や開かれた園として、将来の子ども達を見据えた保育教育、家庭支援ができるようにしていきたいと思っています。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり